

JR東労組盛岡

No.92

2021年5月28日
東日本旅客鉄道
労働組合
盛岡地方本部

〒020-0045

盛岡市盛岡駅西通二丁目16番31号
発行人 佐々木克之
編集人 情宣部
NTT 019-623-1011 FAX 019-624-0157
JR 033-2238・2239 FAX 033-2230

2021年度夏季手当等に関する申し入れ

本日(5月28日)、第1回交渉が開催され、要求の趣旨説明を行いました！！

～東労組の主張～

- ・新型コロナウイルス感染症拡大は1年以上経過するも収束の見通しが立たないという未だかつてない状況下での、組合員と家族の奮闘に報いること、モチベーションを高め、明るい将来を展望できるよう議論を尽くしていく事を労使の共通認識としていくことを求める！
- ・JR東日本発足以来最も厳しい決算となった事は、冷厳な事実として受け止めなければならないが、2021年度通期の業績予想は、単体・連結ともに黒字である。これは紛れもなく、**組合員一人ひとりがコロナ禍での生活、将来への不安を抱えながら尽力してきた結果**でもある事を強く認識すべきだ。
- ・「変革のスピードアップ」を打ち出し、「現業機関における柔軟な働き方の実現について」の提案など、“変革”に向き合う「社員・家族の幸福」の実現、組合員の生活・心の豊かさをまずは実現すべきだ。
- ・21春闘においてベアゼロに留まらず、**JRグループで唯一、定期昇給カットの回答**により、組合員・社員の生涯賃金にも多大な影響を与える事になり、モチベーションをも低下させていることを重く受け止めるべきだ。
- ・赤字、コロナ禍においても組合員の雇用と生活を守り、JR東日本グループのモチベーションを高め、貴重な人材の流出を防ぐ観点からも、今こそ**「人」への積極的投資**が必須である。



【生活実感】コロナ禍においても、年収が約1割減少となっている。各種ローン返済、子供の養育費・教育費や介護費等がかかる。昨年1年間の期末手当の減少により、貯金を切り崩さないと生活ができない現実もある。

【労働実感】赤字・コロナ禍においても、業務量は変わらず、むしろ増加している中、安全・安定輸送と安心の提供に徹している。変革のレベルとスピードアップに対し、自らの将来を描きながら真剣に向き合い担っている。

～会社の現状認識～

- ・1年以上にわたるコロナ対策、3度目の緊急事態宣言の中、日々の安全・安定輸送、サービス提供、地震などの自然災害に尽力し、社会的使命を果たしていることに感謝。
- ・2020年度決算は、営業収益は前年比で約半分、過去最低。1,700億円のコストダウンをしたが、営業利益△4,785億円と大幅な赤字計上。社債等の発行により、30年かけて3兆円を返してきた有利子負債が、1年で1兆円増えた。
- ・足元の状況は、一昨年比で4月の鉄道収入は56%。GWは27%と厳しい。
- ・中長期的見通しは、ワクチン接種が進めば経済活動が進む期待があるが、変異株、ワクチン接種の状況により経済回復が遅れることがあり、今後は不透明である。
- ・会社の持続的発展こそが、社員還元の更なる充実、働きがい向上、社員・家族の幸福の実現につながるという前提に立ち、直面する厳しい経営環境や経営課題について、改めて認識を共有する事が重要である。
- ・変革2027のレベルアップ・スピードアップ、新たな成長戦略を実現していくために、社員一人ひとりが健全な危機感を持って、積極的なチャレンジや自己啓発などに取り組んでいくことが不可欠である。収益力向上、構造改革、システムを超えた新たな価値の創造に対する一層の努力を社員一人ひとりをお願いする。
- ・支給水準は、例年に比べて、極めて慎重に判断せざるを得ない状況にあるといった認識のもと、総合的に判断する必要がある。



私たちの切実な要求に対する満額回答を
組合員一人ひとりの力を結集して勝ち取ろう！

